田迎一・五町内 宮相撲大会

田迎五町内子ども会会長　高山　淑子

平成23年度、子ども宮相撲大会が9月3日(土)に行われました。

台風の影響など若干天気が心配されましたが無事開催することができました。

赤ちゃん相撲では13人のかわいい赤ちゃん達が豆絞りを巻いて、高学年のお兄ちゃん達に抱っこされて土俵入りをしました。

大泣きする赤ちゃんや眠ったままの赤ちゃんもいて境内が和やかな雰囲気に包まれました。

子ども相撲で、ひととおり取組が終わると5人抜きの勝ち抜き戦があり、6年女子の兵頭さんが高学年の男子を次々と投げ飛ばし、あっさり優勝を決めました。

優勝インタビューでは「数年前の大会の優勝決定戦でお兄ちゃんに負けて悔しかったので頑張りました。」と嬉しそうに語ってくれました。

これからも伝統の宮相撲大会が幾久しく受け継がれることを祈りましてご報告とさせていただきます。地域の皆様のご協力を感謝いたします。

おじいちゃん おばあちゃん ありがとう

「ぼくのおじいちゃん」

一町内　二年　角居　和市

ぼくのおじいちゃんは六十六才です。おじいちゃんは六年前まで高校の校長先生でした。おじいちゃんが校長先生だったんだよっておばあちゃんが言ったときは、とてもびっくりしました。今のおじいちゃんは、えずこや、つりぼりにつれていってくれます。

えずこでは、生きものをとりかたを教えてくれました。つりぼりでは魚のつり方を教えてくれました。そしたら、つった中で一ばん大きい魚がつれました。うれしかったです。

ぼくのおじいちゃんが、やさしくてよかったです。

おじいちゃんには、できれば、百二十五才ぐらいまで生きてほしいです。

「だいすきな おばあちゃん」

五町内　一年　中川　花歩

おばあちゃんは、いつもはたけしごとをしています。いつも、まっくろになっています。このまえ、おばあちゃんとプラネタリウムにいきました。いろいろたいへんでしたが、おばあちゃんがいたので、ちょっとらくになりました。

こんどは、子どもぶんか会館にいきたいです。

おばあちゃんは、おこるとちょっとこわいです。

でもやさしいときもあります。だいすきなおばあちゃん　長生きしてね。

田迎小分離校建設の現況

平成二十五年四月開校を目指し、くい打ち工事が始められた工事は着々と進んでいる。また、十月一杯で新しい学校の校名のアンケートが行われて、現在集計中である。十二月の期成会の会議において、結果をもとに校名案が決定して、来年一月に教育委員会に於いて議決され、三月の議会にて校名が決まる様である。

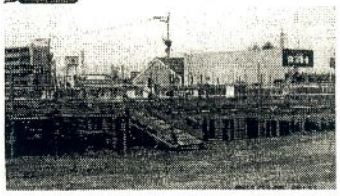
現在、工事はくい打ちは終わり、基礎が出来上がり鉄筋が組まれて、少しずつ形がみえてきつつある。

運動場になる所はきれいに整地され出来上がっている。

現在は基礎になる所から土を運び出す工事と鉄筋を組む仕事をしている様である。運動場も広い様だし、すばらしい学校が出来上がる事であろう。

工事用の看板をみると平成二十六年三月工事完了とある。これは全ての工事が完了する期日と思われる。

平成二十五年四月に開校される事は間違いない様である。



昔のあそびを子ども達へ

九月二十九日(木)田迎小学校一年・二年児童との「ふれあい遊び」「ふれあい給食」が行われた。校区老人会の会員四十名以上が参加して午前十時二十分から一年生とのふれあい遊びが行われた。先生方から児童に内容の説明があった後、教室や体育館に分れて、昔の遊びを行う事となる。

内容は、おはじき、おてだま、ビー玉、こま、竹とんぼ、紙飛行機、はねつき等である。児童たちは自分の好きな所に行き、老人会の方々と楽しく遊んでいた。

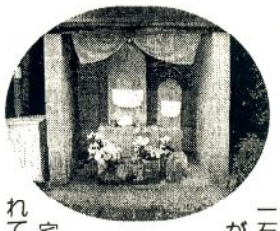
はじめは出来なかった遊びでも、後ではとても上手になり本当に楽しく遊んでいた。先生方の話によると、今日程、伸び伸びと遊んでいるのは、めずらしいとの事であった。

午後は、二年生児童とふれあい給食である。同じテーブルで児童達との食事である。おじいちゃん、おばあちゃんの昔話を聞きながらの楽しい雰囲気の中での食事をしていた。

田迎の史跡めぐり

シリーズ㉕

稲葉地蔵尊と弘法大師



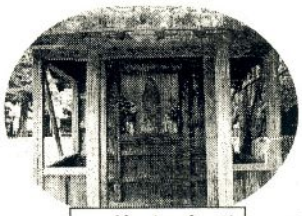
地蔵さんと弘法さんを一石に浮彫してある。

地蔵さんは男の子が祭り弘法さんは女の子の祭りとされていた。

一石に二つの地尊が彫られたのは、めずらしい物である。

なお、出仲間二丁目一一四五、平野氏宅の垣根に祭られている。

上揚地蔵尊



出仲間神社鳥居横にあるが、仏像の台石とみられる石の側面に

「当寺　再建　願主」

正面に次のように彫られている。当寺とあるは光明寺であろう。

弘化二年
多身一身
六道能化　地蔵尊
劫石消儘
七月念佛

弘化二年は（一八四五年）

編集後記

◎今年も、あと一ヶ月となりました。寒さが厳しくなる様です。体調に気をつけてお暮し下さい。

◎インフルエンザにかからない様に御注意下さい。

◎れいすいも、発行してから百四十号を越えました。あと一年、がんばります。町民の皆様方の記事を、お待ちしています。